

専 門 実 践 教 育 訓 練 明 示 書

講座の名称	大学院知的財産研究科知的財産専攻(専門職大学院)				
実施方法	① 通学 (昼間 ・ 夜間 ・ 土日) ② 通信 スクーリング(回数 回)				
指定講座番号 ^(15桁)	2710081	—	1610011	—	5
講座の創設年月日	専門実践教育訓練給付金 対象講座の指定期間	過去一年 の 講座実績	入講者数(35 人)	修了者数(33 人)	
2005年4月1日	2028年3月31日まで				
訓練期間	24ヶ月		総訓練時間	780時間	

1. 教育訓練目標

①取得目標とする資格の名称、目標レベル	<input type="checkbox"/> 業務独占資格・名称独占資格 () <input type="checkbox"/> 職業実践専門課程 () <input type="checkbox"/> キャリア形成促進プログラム () <input checked="" type="checkbox"/> 専門職大学院 (知的財産修士(専門職)) <input type="checkbox"/> 職業実践力育成プログラム () <input type="checkbox"/> 情報通信技術関係資格 () <input type="checkbox"/> 第四次産業革命スキル習得講座 () <input type="checkbox"/> 専門職大学、専門職短期大学、専門職学科 () 教育訓練を通じて取得を目指す上記以外の資格等 知的財産管理技能検定、弁理士
②①に係る資格・試験等の実施機関名称	大阪工業大学大学院
③当該資格等を取得するための要件 または受験資格等	2年以上在学し、論文の審査・合格を要件とした科目の単位を含め、所定の授業科目について52単位以上修得
④当該技能・知識の習得が必須又は有利となる 職種・職務及び習得された技能・知識が活用 されている業界と活用状況	・企業における知的財産を戦略的に保護・活用する専門家や管理職。 ・特許・法律事務所における弁理士、パテントエンジニア、特許や商標 などの権利化スタッフ、外国出願担当者。 ・知的財産契約専門家、知的財産知識を活用するコンサルタント。 ・弁理士、弁護士、行政書士などの専門家の研修。

2. 教育訓練の内容

教科 (カリキュラム)	時間	使用教材名
基幹法領域		
イノベーション支援領域		
グローバル領域	52単位	本学ホームページ
ビジネス領域	780時間	WEBシラバスを参照のこと
分野横断領域		https://www.oit.ac.jp/learning/syllabus.html
研究領域		

3. 受講者となるための要件 (この講座を受講するために必要とされている条件など)

①受講するに当たって必要な実務経験等	なし
②受講者が受講に最低限有しておくべき 資格・技能・知識等の内容及びその水準	大学学部卒
③その他	なし

〔特記事項〕

2026年5月現在

専 門 実 践 教 育 訓 練 明 示 書

4. 教育訓練の受講の実績及び目標達成の状況

(1) 資格取得状況

① 前年度の修了者数	33	人		
② ①に係る教育訓練の入講者数	35	人		
③ ②のうち目標資格の受験者数	33	人	受験率(③/②)	94.3 %
④ ③のうち合格者数	33	人	合格率(④/③)	100.0 %
⑤ ①(修了者数)のうち就職者数 ※1	30	人		
⑥ ①(修了者数)のうち在職者数 ※2	3	人	就職・在職率(⑤+⑥/②)	94.3 %

※1 前年度の修了者のうち、受講開始時に職に就いていなかった者で修了後に就職した者。この場合、就職したとは、臨時的な仕事に就職した者は含めない。

※2 受講開始時に既に職に就いていた者で、卒業後も引き続きその職にある者及び受講開始時に既に職に就いている者で、修了後に別の職に転職した者。

(2) 受講修了者による講座の評価等

① 回答者総数		32	人	
② 受講開始時の就業状況等	1 正社員	3	人	②A: 就業者計 4人
	2 非正社員、派遣社員	0	人	
	3 その他の就業(自営業等)	1	人	②B: 非就業者計
	4 非就業	28	人	
③ 受講開始前と現在の就業先の変化	1 受講開始時の就業先と現在の就業先は同じ	3	人	③の回答数合計 ※②Aと同数(又はそれ以下) 3人
	2 受講開始時の就業先と現在の就業先(自営業等含む)は異なる(転職)	0	人	
	3 受講開始時は就業していたが、現在は就業していない	0	人	
④ 受講後の就業形態	1 正社員	14	人	④A: 就業者計 15人
	2 非正社員、派遣社員	0	人	
	3 その他の就業(自営業等)	1	人	④B: 非就業者計
	4 非就業者	16	人	
⑤ 受講後の賃金変化	1 3割以上増加した	2	人	⑤の回答数合計 ※④Aと同数(又はそれ以下) 8人
	2 1割以上3割未満増加した	0	人	
	3 1割未満増加した	2	人	
	4 変わらない	3	人	
	5 1割未満減少した	1	人	
	6 1割以上3割未満減少した	0	人	
	7 3割以上減少した	0	人	
⑥ 講座の受講の効果	1 処遇の向上(昇進、昇格、資格手当等)に役立つ	7	人	⑥の回答数合計 49人
	2 配置転換等により希望の業務に従事できる	1	人	
	3 社内外の評価が高まる	6	人	
	4 早期に転職・再就職できる	0	人	
	5 希望の職種・業界に転職・再就職できる	6	人	
	6 より良い条件(賃金等)で転職・再就職できる	4	人	
	7 趣味・教養に役立つ	10	人	
	8 その他の効果	8	人	
	9 特に効果はない	7	人	
⑦ 受講開始時に就業していなかった受講者の就業状況	1 受講中又は受講修了後3か月以内に就職した	13	人	⑦の回答数合計 ※②Bと同数(又はそれ以下) 27人
	2 受講修了後3～6か月以内に就職した	1	人	
	3 受講修了後6～12か月以内に就職した	0	人	
	4 就職していない	13	人	
⑧ 講座の全体評価	1 大変満足	17	人	⑧の回答数合計 ※①と同数(又はそれ以下) 30人
	2 おおむね満足	9	人	
	3 どちらとも言えない	4	人	
	4 やや不満	0	人	
	5 大いに不満	0	人	

(3) 受講者、受給者の修了後の状況

(就職等の状況、受講修了者による教育訓練への評価状況、受講後の職務内容変化等の処遇改善の状況、一定期間内でのキャリアアップ成果やその事例、在籍・採用企業の側の評価等)

修了生は、毎年高い確率で希望する企業等への就職を決めており、そのなかで、希望していた知財職としての再就職ができた、希望していた知的財産職を担当することができた、上司からその仕事やその成果が高く評価された等の事例も報告されている。また、採用企業からも知的財産職の即戦力として評価していただいている。

5. 教育訓練の受講による効果の把握及び測定の方法並びにそのレベルを受講者に対して明らかにするための具体的な

1に掲げた教育訓練目標に対する技能・知識のレベル到達度の把握・測定方法	授業科目の成績評価基準は、S(100～90点)、A(89～80点)、B(79～70点)、C(69～60点)、F(59～0点)、*(評価不能)で評価し、「S・A・B・C」を合格とする。
(通信制講座の場合) スクーリングの実施場所、時期、期間・回数	—

専門実践教育訓練明示書

6. 受講効果の把握方法									
(1) 受講認定基準 (6ヶ月ごとの出席率・定期試験、進級試験等の具体的な基準)	授業担当教員により、科目ごとの成績評価基準を設定し、シラバスの評価方法および成績評価基準に定めている。								
(2) 受講認定基準に係る、教育目標に対する技能・知識のレベル到達度把握・測定方法	授業科目の成績評価基準は、S(100～90点)、A(89～80点)、B(79～70点)、C(69～60点)、F(59～0点)、*(評価不能)で評価し、「S・A・B・C」を合格とする。								
(3) 修了認定基準 (出席率・修了認定試験等の具体的な基準)	2年以上在学し、論文の審査・合格を要件とした科目の単位を含め、所定の授業科目について52単位以上修得。								
(4) 修了認定基準に係る、教育目標に対する技能・知識のレベル到達度把握・測定方法	授業科目ごとにディスカッション、レポート作成、筆記テスト等を行い、単位授与の可否を判定。2年以上在学し、論文の審査・合格を要件とした科目の単位を含め、所定の授業科目について52単位以上修得した者に対し、修了(学位の授与)を認定する。								
7. 受講中又は修了後における受講者に対する指導及び助言並びに支援の方法									
(1) 受講中の者に対する習得度・理解度に関する具体的な助言・指導の方法	「知的財産研究科委員会」が中心となって、学生のキャリア・学修希望などを勘案して学生ごとに履修モデルを提示するとともに、学生個々の理解度、学修進度などを定期的に確認しながら随時柔軟な指導を行う。								
(2) 受講中又は修了時における資格取得・就職への具体的なバックアップ体制 (例: 資格取得関連情報や資格関連職種の人事情報の提供方法、早期就職に向けた具体的な相談体制の整備状況)	弁理士やその他の資格のための講座を開設している。特に弁理士試験については、2008年度入学者以降所定の単位を修得後修了した者は、修了後2年間短答式試験の試験科目一部免除及び修了後論文式試験の試験科目が一部免除される。また、大学内のキャリア支援部で企業資料が閲覧できるほか相談にも応じている。								
8. その他の事項									
指定教育訓練実施者名及び代表者名	学校法人常翔学園 (代表者名: 理事長 西村 泰志)								
住所及び連絡先	〒535-8585 大阪府大阪市旭区大宮5丁目16番1号 TEL 06-6954-4014								
施設名称及び施設長名	大阪工業大学大学院 (施設長: 学長 井上 晋)								
住所及び連絡先	〒535-8585 大阪府大阪市旭区大宮5丁目16番1号 TEL 06-6954-4163								
苦情受付者	氏名	御船 理佐	所属	知的財産研究科 事務室	事務担当者	氏名	河野 知子	所属	知的財産研究科 事務室
連絡先	TEL 06-6954-4163				連絡先	TEL 06-6954-4163			
専門実践教育訓練経費 支払い方法 ① 一括払 ② 分割払 ③ 両方可	1. 専門実践教育訓練給付金の対象となる経費 (① + ②)					2,660,000	円		
	① 入学料(税込額) ※割引・還元措置を実施した場合にはその差引き後の税込額とすること。					200,000	円		
	② 受講料(税込額) ※割引・還元措置を実施した場合にはその差引き後の税込額とすること。					2,460,000	円		
						第1期 615,000	円		
						第2期 615,000	円		
						第3期 615,000	円		
						第4期 615,000	円		
					第5期	円			
					第6期	円			
					(うち、必須教材費)	0	円		
2. 専門実践教育訓練給付金の対象外となる経費 (① + ② + ③ + ④)					266,900	円			
① 任意の教材費(税込額)					0	円			
② 実習等に伴う交通費・宿泊費(税込額)					0	円			
③ 施設維持費(税込額)					240,000	円			
④ その他(法人への寄付金、PCの損害保険料、情報誌代) (税込額)					26,900	円			
3. 総額 (1+2) (税込額)					2,926,900	円			

教育訓練給付制度の適正な利用に必要な事項について

教育訓練給付制度を適正に利用していただくために、下記の点について十分にご理解いただくようお願いいたします。

記

- (1) 専門実践教育訓練給付金の支給対象となる教育訓練経費とは、受講者が自らの名において直接専門実践教育訓練実施者に対して支払った教育訓練の受講に必要な入学料及び受講料に限られます。
- (2) 受講料には、受講費のほか、受講に伴い必須となる教材費用等も含まれますが、検定試験受験料、補助教材費、補講費、交通費、パソコン等の器材費等は含まれません。また、クレジット会社に対する手数料、支給申請時点での未納の額(クレジット会社を介してクレジット契約が成立している場合を除きます。)も教育訓練経費に含まれるものではありません。
- (3) 現金等(有価証券等を含みます。)や物品の還元的な給付(一つの講座について、クリアファイル等の総額千円未満の安価な物品等を付与する場合は除く。)その他の利益を受けた場合や、各種割引の適用を受けた場合には、その還元的な給付額や割引額等を差し引いた額が教育訓練給付金の対象となる教育訓練経費となります。
このため、このような還元的な給付等を受けた場合には、入学料及び受講料の額から当該還元額を控除した額で教育訓練給付金の支給を申請することが必要になります。
なお、当該教育訓練経費に係る領収書又はクレジット契約証明書の発行後、受講料の値引き等により教育訓練経費の一部の還付が行われた場合には、教育訓練給付金の支給申請に際しては、教育訓練実施者が受講者に発行する、還元額等が記載された「返還金明細書」の提出が必要となります。
- (4) 専門実践教育訓練給付金は、当該教育訓練を実際に本人が受講し、修了した場合支給されるものです。このため本人以外の者が受講し、修了等した場合には、専門実践教育訓練給付金は支給されません。
また、当該教育訓練の定期的な試験又は修了試験に際して、あらかじめ解答が添付されている場合等にあつては、当該教育訓練を修了する見込みがあるもの又は修了したものとは認められていませんので、専門実践教育訓練給付金の支給を受けることはできません。

以上